

白井市立桜台小学校・桜台中学校給食のあり方検討委員会 提言書

令和4年8月26日（金）

白井市立桜台小学校・桜台中学校給食のあり方検討委員会

1 はじめに

桜台小学校・桜台中学校の給食調理場は、平成6年に供用が開始され、施設・設備の老朽化及び学校給食衛生管理基準を満たしていないという課題を抱えている。

そのため、平成30年2月に策定された白井市行政経営改革実施計画で、令和2年度後期より、「桜台小・中学校の安全で効率的な学校給食のあり方の調査・検討の開始」と位置付けられ、その後、平成30年8月に策定された「財政推計の見直しと財政健全化の取組」で、桜台小学校・桜台中学校の調理場の老朽化に伴い、最新設備を備えた学校給食センターへの移行が取組内容として挙げられた。この移行により、桜台小学校・中学校の調理場の年間運営費6,600万円程度を削減し、配送車を確保することで、4,900万円程度の経費削減が見込めるとしている。

これらのことを踏まえ、平成30年度より、桜台小学校・桜台中学校の給食提供を学校給食センターへ移行することについて、白井市として保護者の理解を求めたが、市の説明では保護者の疑問や不安を払拭できず、十分な理解が得られなかった。令和元年12月には「桜台小・中学校の自校式給食を学校給食センターに移行することについては、その時期を令和3年度から予定していたが、令和3年度以降も当分の間は、現状のままとし、同校の学校給食のあり方について改めて検討する。」とされた。

以上のことから、令和2年12月に白井市立桜台小学校・桜台中学校給食のあり方検討委員会（以下「委員会」という。）が設置され、わたくしたち（別添委員名簿参照）が委員として委嘱を受け、これまで検討を進めてきた。

この度、委員会として一定の方向を取りまとめたので、提言書として提出する。

2 検討の経過

（1）第1回 委員会（令和2年12月17日）

- 委員会の目的と役割の確認。
- 白井市給食の現状と桜台小学校・桜台中学校の給食についての説明。
- 桜台小学校・桜台中学校給食のあり方の検討に関するこれまでの経緯の説明。
- 今後のスケジュールの承認・確認。

- ・ この回では、27年ほど経った桜台小学校・桜台中学校の校舎の大規模改修とともに、調理場が老朽化していること、衛生管理基準を満たす設備にするには増床が必要なことが説明された。

また、令和元年7月に実施された桜台小学校・桜台中学校のPTAアンケートで、給食センター統合に反対が74.6%（回収率56.0%）であることが示された。

- ・ 給食の方法については、①自校方式 ②親子方式（新規建設） ③給食センター方式 ④デリバリー方式 が今後考えられることが示された。

<参考資料>

【「3. 桜台小中学校の給食（P 1 3）」 資料1】

【「5. 給食の方式について（P 3 3）」 資料2】

※第1回委員会スライド資料より

(2) 第2回 委員会 (令和3年3月26日)

○学校給食センター・桜台小学校・桜台中学校調理場見学。

○桜台小学校・桜台中学校の調理場では、17名の調理員と2名の栄養士が働いていることの確認。

○桜台小中学校の給食のあり方についてアンケートの実施方法について検討。

- ・ この回では、市内3カ所の給食調理場を見学した後、アンケートの実施方法について検討した。
- ・ 検討の結果、以下のように決定した。
 - ①対象 白井市民全般の中から抽出（有効数）
 - ②実施時期 令和3年7月
 - ③結果報告 令和3年10月の第4回委員会
 - ④アンケート内容 抱えている現状と課題をコンパクトに整理し、簡単な方向性について回答。自由記述欄を設け、意見がある方はそこに書いていただく。

(3) 第3回 委員会 (令和3年6月22日)

○桜台小学校・桜台中学校の給食試食。

○説明事項（市の子育て施策について、市の財政状況について、食育について）

○アンケートの内容について意見交換。

- ・ この回では、桜台小学校・桜台中学校の給食の試食を行った。その後、白井市第5次総合計画に基づいた子育て施策が計画・実施されていること、市の財政状況として決して余力があるわけではないこと、各学校で食育年間計画に沿って食育を行っていることについての説明があった。
続いて、事前に送付したアンケート（案）に対し、各委員から提出された意見について検討した。意見は50項目と多岐にわたるため、委員長から各委員へ意見があるかと確認後、意見がなければ、委員長の考えを述べ、それに対し委員が意見を述べるという形で進めていきたいとし、話し合いを進めた。
- ・ アンケートについて以下のように決定した。具体的な修正については、事務局と委員長に一任された。

- ①アンケートは、答申を行うための参考意見として行うものであり、アンケートの結果に我々の結論が縛られるものではない。
- ②配付は、アンケートの有効数を回収するため1,500人(対象は18歳から78歳以下の無作為に抽出した市民)とする。
- ③1枚目は、アンケート趣旨説明と実施のお願いについて
2枚目は、桜台小学校・桜台中学校と白井市給食センターの比較(説明)
3枚目は、自校方式継続の場合、親子方式(新規建設)に変更する場合、給食センター方式に移行する場合について比較、市の財政状況(説明)
4枚目は、マークシート方式のアンケート(自由記述欄あり)

<参考資料>

- 【「子どもに係る実施計画事業」(市企画政策課より) 資料3】
- 【「財政推計の見直しと財政健全化の取組」(市財政課より) 資料4】
- 【「白井市の財政状況について」(学識経験者の委員より) 資料5】

(4) 第4回 委員会 (令和3年10月20日)

- 説明事項(アンケート結果について、一委員による調査研究論文「義務教育における学校給食の食育のあり方に関する考察～千葉県事例から～」について)
- 桜台小中学校の学校給食に関する桜台地区の方6名からの意見発表。

- ・ この回では、アンケート(対象は市内在住の18歳から78歳以下の市民から無作為に抽出した1,500人。回収数532通、回収率35.5%)の結果について確認した。
- ・ 調査研究論文の内容について一委員より、自校方式、親子方式、給食センター方式による食育の充実度についてアンケート結果の説明があった(資料6参照)。
- ・ 桜台地区の方6名から以下のような意見が出された。
 - ①桜台小学校・桜台中学校の自校方式は、学校給食センターにとってお互いを高め合う存在として役立ち、白井市全体の利益向上につながることから、自校方式の長所をより一層活用する方が得策であるといえよう。給食センター方式に移行した場合の経費削減額約4,900万円(歳出額の約0.2%)を超えるものと考えられる。
 - ②桜台地区創設開始から続く自校式給食は地域特性にマッチし、桜台の地域文化として定着した地元の財産。桜台のまちづくりからは外せないファクターである。
 - ③作り手が目の前にいて、調理中の香りを感じたり、調理員の皆さんと触れ

合ったりすることで、調理員の方の思いや苦勞を肌で感じることができる。
また、栄養士が児童・生徒一人一人をよく把握している。

- ④財政健全化という名のもとに、不要な無駄なものにとらえず、教育的に必要な経費として、今後も桜台小中学校の自校給食を存続してほしい。
- ⑤加工食品を取ると、将来成人病などにかかにつながるのかというエビデンスも取られている。
- ⑥親子方式を新設ではなく、増設で実現する可能性も考えられるので検討してほしい。新設の場合の工事費は、資料では5億5,000万円程度だが、増設だと9,500万円程度の工事費と試算した。

(まとめ) 桜台の最大の特徴として自校式を継続してもらいたい。そして、それは桜台の給食だけではなくて、センター給食のさらなる発展にもつながると考えている。

<参考資料>

【アンケート及びその結果】

【「義務教育における学校給食の食育のあり方に関する考察～千葉県の事例から～」 資料6】

【「桜台小・中の学校給食に関する桜台の意見」(桜台地区の方6名より) 資料7】

(5) 第5回 委員会 (令和4年1月26日)

○説明事項 (学校給食と食育)

○桜台小学校・桜台中学校給食のあり方について検討

- ・ 追加説明として、学校給食と食育について説明された。その後、今までの説明やアンケート結果・三菱UFJ不動産販売による2019年度版の財政健全度ランキング(白井市 全国180位)・東洋経済新報社が2019年に公表した財政力のランキング(白井市 全国133位)を踏まえ、桜台給食のあり方について各委員が意見を述べた。
- ・ 主な意見は以下のとおり。
 - ①ランキングは全体として財政状況が悪化している自治体の中での相対評価に過ぎず、白井市の財政は決して余力があるわけではない。今の若い人たちに将来的に重い負担をかけることは避けなければいけない。
 - ②流山市は人口増加率5年連続日本一を誇っており、自校方式が19校、親子方式が1校である。市長が子育て世代が集まるようなまちづくりに心がけている。

- ③ 柏市長は、食に関して身近に感じることができる現在の自校方式を維持する、と言っている。
- ④ 1つの給食センターで市内全小中学校児童・生徒分の給食を賄える能力がある。
- ⑤ 白井市は給食センターから車で温かいうちに給食を運べる範囲に全ての学校がある。
- ⑥ アンケートより、センター方式に移行を希望する方のほうが、パーセント的には多いということが示された。公費の負担額がこれほど違っているのはよろしくないというような意見が大部分を占めている。
- ⑦ 千葉市の場合、財政が厳しいという面もあるかと思うが、食に重きを置きたいという考えでずっと自校式である。千葉市全体が食育に熱心であり、例えば、公立保育園も各園に栄養士が配置され、自園で給食を出している。
- ⑧ 小学校の調理場を親子方式として増設する場合、その期間、給食が提供できず、保護者に負担を強いることになる。
- ⑨ 小学校の調理場を親子方式として増設する場合、作り手が見えるとか、匂いが漂うというのが、中学校では少なくなってしまう。
- ⑩ 残菜率で算出すると、給食センターの方は小中学校合計で約5,200万円、保護者たちが払った給食費を毎年捨てていることになる。
- ⑪ 今の白井市として、今後どうしていかなければならないかというところが一番大切。まずは、給食センターに統合し、子供たちが安心して給食を食べ続けられる状況をつくってほしい。その上で、食育の充実を図ってほしい。
- ⑫ 桜台給食のよさを給食センターが真似て、どんどん良くなっていけば良い。今の財政状況をあまり考えなければ自校方式存続は希望であり、夢である。

<参考資料>

- 【「学校給食と食育」(学識経験者の委員より) 資料8】
- 【「白井市、桜台地区の人口推移」 資料9】
- 【「平成28年度～令和2年度 給食材料購入費」 資料10】
- 【「平成28年度～令和2年度 残菜率と児童数の推移」資料11】
- 【「平成28年度～令和2年度 学校給食センター、桜台小学校・中学校 残菜処分量及び処分費用」 資料12】

(6) 第6回 委員会 (令和4年7月12日)

○提言書の内容について内容確認と意見交換、採決。

- ・財政面でのコスト削減の必要性について確認した。
- ・「小学校の調理場を親子方式として増設する場合、その期間、給食が提供できず、保護者に負担を強いることになる。」を記載することとした。
- ・老朽化についての見方考え方について再度確認し、27年経ち老朽化していることを記載することとした。
- ・桜台小学校・桜台中学校の調理場では、計17名の調理員が働いていることを記載することとした。
- ・議事は過半数をもって決することを確認した。

3 委員会が最終的な答申をまとめる際の参考とするためアンケートを実施し、その結果は別紙のとおりであった。

4 桜台小学校・桜台中学校給食のあり方についての提言

以上の検討を踏まえ、当委員会として以下のとおり提言する。

桜台小学校・中学校の調理施設・設備の老朽化や市の財政状況、市民から示されたアンケートの結果に鑑みると、公費負担の平等性や将来負担の低減の観点から、また、将来にわたって学校給食衛生管理基準を確保する観点から、桜台小学校・桜台中学校の給食提供については、学校給食センターに将来的に統合することが適切であると考ええる。

○ このことは、白井市の学校給食センターには市内全小中学校児童、生徒分の給食を賄える能力があること、また、車で温かいうちに給食を運べる範囲に全ての学校があることなど、その機能やおいしい給食の提供が可能であることについても十分検討した結果である。

なお、この提言は、委員2名が反対したことにより、全委員による意見の一致が見られなかったため採決により決したものであることを申し添える。

最後に、検討の過程で委員間で議論した点を踏まえ、次の点について付言する。

(1) 残菜率の低減について

学校給食センターでは施設内からのすべてのごみの重量で残菜率を出しており、桜台小学校・桜台中学校では、給食室から出るごみの目視から残菜率を出していて、同一の基準で算出していないので単純な比較はできないが、現在示され

ている給食の残菜率は学校給食センター(H31年度18.3%、R2年度16.6%)の方が桜台小学校・桜台中学校(H31年度4.8%、R2年度4.9%)に比べて多くなっている。これらの改善に向け、適切に対応をすべきである。

(2) 食育の充実について

一般的にセンター方式よりも自校方式の方が食育を充実しやすいと言われている。実際、桜台小学校・桜台中学校においては、これまで栄養教諭・栄養士が中心となって、日々の食育が行われてきた。今後はこれまで培ってきたこれらの取り組みや知見を十分に活かし、市全体に波及させていくことが強く望まれる。

<参考資料>

【委員会委員名簿】